

(1) 安心院町へ

令和3年(2021年)12月5日、安心院町グリーンツーリズム研究会(以下、「安心院町GT研究会」)をお訪ねしました。熊本市から大分県宇佐市安心院町までは車で約2時間30分。九州自動車道を熊本ICから鳥栖JCTまで北上し、大分自動車道へ。午前11時に安心院町に到着しました。

安心院町GT研究会の事務所で宮田静一会長にお会いする午後2時まで、安心院町の雰囲気を見て回ることになりました。まずは「安心院葡萄酒工房」へ。名産であるワインの醸造所や販売所のほか、レストランもあり、大型バスが入れる駐車場があります。また、葡萄酒工房のすぐ上には町が眺望できる展望所もあります。

「杜のワイナリー」という看板がある工房は、森の中に建物をつなぐ歩道が散策路のように配置されています。ちょうど紅葉が見事でした。販売所では多くの種類のワインが並んでいます。レストランにも大型バスが停まっており、団体の観光客が食事を始めていました。話しかけてみると、北九州市八幡東区の町内会の方々でした。

宇佐市は古くから北九州市とは近い関係にあったようで、観光でも仕事でも交流があるそうです。特に高度経済成長期においては八幡製鐵所や国鉄の関連企業が大きな雇用力を持っていました。安心院町の農泊家庭にも、就職は北九州で、定年退職後に安心院に戻ってきたというご主人たちがいらっしゃいました。

展望所に登ると、遙か南に由布岳や鶴見岳、くじゅう連山を望み、眼下の安心院町は山々に囲まれた盆地であることがわかります。近隣の家族の他に福岡の大学生のグループも遊びに来ていました。ドライブがてら、特に目的もなく来たという話でした。大分と福岡・北九州の距離感の近さにあらためて驚きました。

昼食後、安心院町GT研究会から車で10分ほどの「鰻絵(こてえ)通り」を歩いてみました。短い街並みのあちらこちら、個人宅の壁や戸袋などに恵比寿、大黒、竜虎などの鰻で描かれたレリーフが施されています。説明パネルを読むと、多くが100年以上前のものです。小グループのシニア男性たちがガイドさんの説明を聞きながら見学されていました。印象に残ったのは細やかな説明看板と駐車場に立てられた「観光客優先」の看板です。



安心院葡萄酒工房



展望所からの安心院町の眺め



鰻絵通り

(2) 安心院町グリーンツーリズム研究会・宮田会長インタビュー

午後2時、安心院町GT研究会の事務所に宮田静一会長をお訪ねし、インタビューさせていただきました。

研究会の事務所前には、「心のせんとく グリーンツーリズム発祥の地 安心院町」というレリーフの記念碑が建てられています。記念碑の裏側には、「研究会のあゆみ」と「研究会の基礎となった専門部活動」が刻まれており、専門部活動の企画開発部には今日宿泊させていただく「百年乃家ときえだ」の時枝仁子(まさこ)さんのお名前も見えます。

会長のお話は海外での体験から農泊をめぐる法整備やメディアの話まで多岐に渡ります。ここでは要点を整理して、簡潔に掲載します。

1) 安心院町GT研究会は「農村の危機」から始まった

大分県安心院町は昭和41年(1966年)に国営農地開発事業によりブドウ栽培を発展させました。1970年代にはブドウ農家350軒、栽培総面積350haとなり西日本有数の産地を目指すに至りましたが、その後、農家数も栽培面積も半減、先行きが危ぶまれる状況を迎えます。そのような中、「ブドウの灯を消すまい」を合言葉に平成8年(1996年)に発足したのが安心院町GT研究会でした。農泊発祥の地として知られる安心院町GT研究会ですが、その出発点は「農村の危機感」であったということは重要です。

同年には第1回ヨーロッパ研修にでかけており、ここが安心院町GT研究会の起点だと言えるでしょう。

平成16年(2004年)にNPO法人化されて現在の組織構成となり、翌平成17年(2005年)には(財)日本修学旅行協会との提携によって本格的な教育旅行の受け入れを開始するとともに、現在も続く人材育成の場「グリーンツーリズム実践大学」を開校しています。平成8年(1996年)の起点から約10年かかって、安心院町GT研究会の現在に至る体制が整えられました。

これまで修学旅行や体験旅行などの教育旅行を25年間受け入れた経験を持ち、新型コロナウイルス感染症が感染拡大する前には、年間9,000人~10,000人もの方を受け入れるまでに成長してきました。

2) 「農泊」は安心院町GT研究会が商標登録していた言葉

「農泊発祥の地」という表現ですが、事実、「農泊」という名称を考案し、商標を取得したのも安心院町GT研究会です。もともと「民泊」という言葉が使われていたのですが、マンションなどの空き室を活用した宿泊



グリーンツーリズム研究会事務局
事務所の前には記念碑が建てられ、裏面には年表が刻まれている



事務局内部と宮田静一会長

施設も「民泊」と呼ばれるようになり、混同を避けるために、宮田会長らが「農家民泊」だから「農泊」という言葉を考え、商標登録もしておこうということになったそうです。

さまざまな経緯があった後、平成28年(2016年)に農林水産省に伝える形で「農泊」商標の専用使用権の設定に同意し、このことが現在「農泊」が一般化した要因となっています。

3)「農泊」の出発点、ドイツの農村に学んだこと

「津端修一先生が『現代ヨーロッパ農村休暇事情』という本を書かれて、津端先生を呼んできたのが最初ですね。湯布院のシンポジウムで知り合い、安心院で講演をしていただいた。印象に残っているのが、オーストリアでは旅行者の7割が農村で休暇を過ごす。津端先生が『嘘か本当かヨーロッパに観に行ったらいい』とおっしゃるので、行きました。平成8年(1996年)11月、第1回のヨーロッパ研修ツアーです。希望者が月々4,000円ずつ積み立て、自分のお金で参加するもので、平成29年(2017年)の第17回まで続いています。現在はコロナで休止していますが」と宮田会長は言います。

ヨーロッパで、宮田会長たちは日本とはまったく異なる農村のあり方にショックを受けます。

「ドイツのフォークトブルクで、市長さんに『どのくらいの方がグリーンツーリズムに関わっていますか?』と聞いたら、『100%ですね』と。

ドイツの人たちは長い夏休みのために日々を頑張る。いま、宇佐市だけで空き家が3,500軒あると聞くけど、1割でもいいから復活させたい。だから私は農泊とバカンス法はセットだと考えているし、バカンス法成立に向けてこれからも国に働きかけていきます。事務所の前の石碑の裏に年表、下の方に空欄がありますね。あれは『バカンス法成立』って刻むために空けてあるんですよ。

安心院町の取り組みはメディアの注目を集めます。平成14年(2002年)にはJR九州と、平成17年(2005年)には日本修学旅行協会との提携などが進み、年間9,000人～10,000人を受け入れるまでに成長していきました。



第16回ヨーロッパ研修旅行の様様

第16回ヨーロッパ研修旅行の参加者募集チラシ

2017年

第16回安心院グリーン・ツーリズム研究会 海外先進地研修!

ドイツ グリーンツーリズム研修旅行

- ◆ 旅行期間：2017年12月10日(日)～12月17日(日) <8日間>
- ◆ 参加人員：15名位 (若少旅行人員：10名)
- ◆ 募集締切：2017年9月29日(金) (但し、定員になり次第、締切りします)
- 旅行代金：〈期間空滞費等、お一人当たり〉220,000円
- ※ 燃油サーチャージ(日空より2017年8月10日現在)は旅行代金に含まれていません。また、国内空港乗降料・旅費安サービス料及び、海外空港乗降料が別途必要(乗降料は21,450円)となります。
- ※ 7名1室料用(宿泊費)を予定しております。
- ◆ 特別案内：現地でごまかれない食事代などは概ね一人3万円程度となります。
- ◆ 添乗員として過去15回の本ツアーに同行した二階茂行に案内します。

※ 募集状況については、厚生労働省「観光振興情報」ホームページ <http://www.forth.go.jp/> でご確認ください。また、当該情報については、外務省海外安全ホームページ <http://www.mof.go.jp/> で確認ください。

<企画書からのご挨拶>

昨年と一昨年の研修旅行は欧州でのコロナの影響が深刻化していたので実施できませんでした。今回は、ドイツ・フランスの訪問になりますが、ドイツ農村体験型の地で強固研修することに加え、ドイツとフランスの村づくりを具体化した「わが村は美しく」や「フランスの美しい村」を訪問する企業と熟しました。これらの取組を訪問することで、農山村の持続性に成功している状況を見て、私たちが将来的な視点でなに行っていくかを研修すると共に、欧州の持続的農村の中で、農村体験の利便性について教養を学びながら、実際に体験してみようと考えています。また、研修の機会ですので、沿道にある有名な観光地もめぐり、感懐への配慮なども見学するほか、ドイツの農業をある意味で支えているクライン・ガルテンも訪問する予定です。また、丁度クリスマス・マーケットの時期ですので、この見学も興味深いものがあります。




旅行企画・実施 **15歳日本サーガ**
福岡支店
事務局 安心院グリーンツーリズム研究会

4)「農泊」「教育旅行」は日本の農村の大きな役割

宮田会長は「農泊は『第3の教育』だから」と話します。「家でもない、学校でもない、他人の家に泊まる第3の教育の場。子どもたちが変わるんです。今の子どもたちは人間不信の環境の中で暮らし、他人を信用しちやいけない、と教えられる。でも、農泊に来ると自然体でいられる。自己を肯定できる。

安心院は北九州からの修学旅行が多いんですが、10年連続で来られる学校が10校以上ありますよ。農泊は子どもたちのためにもやった方がいいと思いますね。奈良の大仏は『またおいで』とは言ってくれませんかからね。私たちは『困ったらまた来るんよ』と声をかける」。

安心院町GT研究会の看板や石碑には「心のせんたく」というキャッチフレーズが書かれています。私たちも実際に安心院のご家庭で泊めていただきましたが、田舎の実家で過ごすのと異なる、地方のホテルで過ごすのでもない、独特の心地よさがあります。この心地よさに子どもたちも大人たちもひと時の解放感を見出すのかもしれない。

一方、宮田会長は農村にとっても「農泊」は大事だと語ります。「人とのふれあいが難しくなり、ストレスが高まると、農泊のニーズはさらに高まっていくと思います。農泊は、小さいけれど成長産業だと思えます」。

また、「農泊」は過疎化していく農村にとって、関係人口を増やすという意味でもその意義は大きいのは確かです。安心院には「親戚カード」というものがあります。1回泊まるごとに印鑑をもらうスタンプカードですが、そこには「一度泊まれば遠い親戚、十回泊まれば本当の親戚」と印刷されています。実際に10回以上来訪された方も何人もいるそうで、中には多額の寄付(事務所の建設に)をされた方もあるとのこと。まさにファンがリピーターへ、そして親戚以上の深い関係へとつながっていったということでしょう。

5)「農泊」は地域おこしを超えて仕事に。だからルールがある

「最初は地域おこしから始まった農泊ですが、すでに地域おこしの域を超えて、仕事として取り組むことが必要だ」と宮田会長は語ります。そのため、訪問客の受け入れ対応についてはルールを定め、受け入れ家庭に対して指導を行っています。

宮田会長の著書「農泊のススメ」には、受け入れ対応のルールを「農泊の極意(農泊を始める方へ)」として43項目が紹介されていますが、そのうちいくつかピックアップします。

【農泊の極意】

◎農泊はリレーでつながり続けるコツ

宿泊客を家族全員で出迎え、食事も家族全員が同席、見送りも家族全員で・・・は実は息苦しく負荷も大き



安心院町GT研究会の農泊風景



親戚カード

い。出迎も食事もリレーでつなげばよい。見送りは家族全員で。

◎暇と余裕が農泊の資格

忙しい時でも忙しくないふりを。田舎にゆったりと心のせたくをしに来た人に「忙しい時にすいません」と気遣いさせないように。

◎「これ、明日も出してください」を真に受けてはダメ

対価をいただく宿泊業で昨日の残り物を出すなど厳禁。家庭的な雰囲気になされると大きな問題に発展する。同じ料理を提供するなら、新たな物を。

◎田舎にいても知的でオシャレに

農泊は田舎が舞台だが、田舎者ではこの仕事には向かない。田舎のイメージを超える工夫がなければ次はない。

「極意」はこのように続きますが、いずれも「対価をいただき、予約していただく以上、農家のありのままがいいという甘えは許されない」という考えが基本にあります。多くのリピーターを育ててきた安心院町GT研究会の秘密がここにあるように思えます。

特に大事な項目が「熊本の農泊地域の方たちに何かアドバイスを」と尋ねた時に、宮田会長から語られました。「よくうちの皆さんに言うことがあるんですよ。一つが『苦情、失敗、よかったことを共有せよ』、二つ目に『決して陰口は言わない』、そして三つ目に『一流に学びしっかり勉強しよう』と。悪口を言う人のところに人は来ない。みんなが仲良く力を合わせる事が大事ですね。そんな自分たちになるためには勉強して成長することです」。

6)小国に学んだ「GT実践大学」は実現までに10年

「一流に学びしっかり勉強しよう」を形にするために、安心院町GT研究会では平成17年(2005年)から「グリーンツーリズム実践大学」という学びの場を開催しています。多い時には年に5回、文化人の講演会と料理などの実習会などをセットにするケースが多かったようです。

この実践大学、実は発想のもとには熊本県小国町の「九州ツーリズム大学」でした。

「安心院町GT研究会を立ち上げて間もない頃、私も小国町に伺いました。こういう学びの場を作りたいと思った。でも、まだうちではできないなというのが実感。それで、『人を貯金しよう』と思った。先々で知り合った人たち

未来ある村日本農泊連合 未来講座
(第15期 大分・安心院グリーンツーリズム実践大学) 8月開催

2019年
8月31日 14:00~15:30

会場：宇佐市役所院内支所多目的ホール (大分県宇佐市内町山崎39)
受講料：800円 (高校生以下は500円)

「農林漁家民宿おかあさん100選」が語ります

【内容】
「農林漁家民宿おかあさん100選」とは農林水産省と観光庁との連携事業(平成19年~21年)で、農林漁家民宿の品質の維持・向上を図るとともに、イメージや実態を広く国民に理解してもらうため、地域のオピニオンリーダーであり、自身の長年経営に成功し、地域活性化に寄与している「農林漁家民宿おかあさん」を選定するものです。
今回はそんな「おかあさん100選」に選ばれている3名のお母さんにおもてなしの心得や農泊の魅力について語っていただきます。

舟橋晋はなしの家 中山 五十子 氏 (大分県・安心院) 百原乃華とさえ左 寿枝 七子 氏 (大分県・安心院) 一ノ谷コウケン 豊岡有希の母 豊岡 雅子 氏 (大分県・山鹿)

【コーディネーター】
星月 雅子 氏 (NPO法人大分県グリーンツーリズム研究会 事務局長)

【お問合せ申し込み先】
NPO法人安心院町グリーンツーリズム研究会 TEL 0978-44-1158

主 催：未来ある村日本農泊連合・NPO法人安心院町グリーンツーリズム研究会
後 援：NPO法人大分県グリーンツーリズム研究会

**第16期 大分・安心院
グリーンツーリズム実践大学**

2020年
10月19日 14:30~15:30

会場：宇佐市役所院内支所多目的ホール
(大分県宇佐市内町山崎39)

受講料：無料

「宇佐の井手の歴史」
平田 崇英 氏
(観光等任務・豊の国宇佐市長 助員)

県下最大級の産地である宇佐平野。その産地帯を支える井手の歴史を豊の国宇佐市長の平田先生にお話いただき、宇佐の歴史の理解を深めていきましょう。

【プロフィール】
昭和23年12月7日 宇佐市生
昭和46年3月 豊後大学文学部仏教学科卒業
昭和53年5月 財団法人救済保護団長
昭和54年8月 祖父(現在の理事長)後継取得 大分県男性1号
平成11年6月 浄土真宗本願寺派教団専任職等

(豊の国宇佐市歴の活動)
昭和62年9月より 地域づくり団体 豊の国宇佐市長 助員代表
昭和63年10月「歴史第一の世界」
平成元年11月「政界第一の世界」
平成3年2月「宇佐市歴史第一の世界」

【新型コロナウイルス感染症防止策について】
新型コロナウイルス感染症防止のため、消毒済の設備・会場内の換気等の対策を取ったうえで実施いたします。
※当日はマスク着用をお願いいたします。
※発熱・咳等の症状がみられる方は、ご参加をお控えください。

【お問合せ申し込み先】
NPO法人安心院町グリーンツーリズム研究会 TEL 0978-44-1158

主 催：NPO法人安心院町グリーンツーリズム研究会

実践大学の参加者募集チラシ



実践大学の開催

といい友達関係を作る。グリーンツーリズム大学を立ち上げた時に協力してくれる人脈をつくるためです。地域内の人だけでは知れてます。外の知見のある人たちを呼んできて、内容を膨らませていかないと。実際に立ち上げるまでに10年かかりましたね」。

7) 新型コロナウイルス感染症の影響と対応

新型コロナウイルス感染症の影響により、安心院町も大きなダメージを受けています。会長によれば「コロナ前の受入人数は、教育旅行が子どもたち年間約7,000人と大人2,000人、加えて各地からの視察旅行が約1,000人で合計約10,000人あったけど、このコロナ禍の2年間はその1割以下です。9割以上ダウンしてしまいました」。

客数の減少はそのまま減収となり、それは2つの現象につながっています。

ひとつは事務局機能の低下です。3名の正職員(常勤)で事務局業務を担当していましたが、1名に減らし、不足する場合は臨時のパート職員で補うことにしました。

もうひとつは受入家庭の減少。ピーク時に80軒あった受入家庭が現在約50軒。このままだと40軒にまで減少しそうです。このこと。宿泊の予約が入らないので収入が見込めず、アルバイトに出たりするためです。

訪問した令和3年(2021年)12月の時点では、翌年の農泊予約がコロナ前の7割ほど入っているということでした。それではキャパシティが不足するため、安心院町GT研究会では「受入家庭の新規募集」を行っています。「特にこの4~5年、役場の方でも力を入れて募集告知を行ってもらった。増えていますが、減る方が多いんですよ」。

「事務局機能の回復」も「受入家庭の増加」も、まずは新型コロナウイルス感染症の終息が前提となります。令和4年(2022年)初頭、再び感染が拡大しており、せつかく回復基調に合った予約状況も先行き不明です。

8) 新たな取り組みへ ~スッポン料理実習会とリゾートホテルとの提携~

インタビューの翌日の「スッポン調理実習会」は、私たちも取材させていただきました。新型コロナウイルス感染症により開催休止していた「グリーンツーリズム実践大学」久々の開催。農泊家庭メンバーたちの学びの場です。

スッポンは安心院の特産品ですが、これまで農泊家庭では提供していなかったとのこと。「実は、これまで遠慮していたんです」と宮田会長は言います。農泊事業は既存の宿泊業者や飲食業者との軋轢が起きやすいので、競合を避けてきたとのこと。

「しかし、コロナのために、遠慮していたら農泊そのものが倒れてしまう。安心院名物のスッポン料理が提供できるなら高額商品ですから、農泊家庭の利益も大きい。また、教育旅行は子どもたちがターゲットですが、スッポン料理なら大人へとターゲットを拡大することも可能です」(宮田会長)。



事務局入口に貼られていた農泊家庭募集ポスター

もうひとつ、コロナ禍での新たな取り組みについてお聞きしました。それは、城島高原ホテル(別府市の城島高原オペレーションズが運営)との提携です。「城島高原ホテルさんから声をかけていただきました。城島でホテル1泊、安心院で農泊1泊。ホテルと農泊と一緒に宣伝しよう。私も同じことを考えていたのでありがたいです。すでにスタートはしていますが、今の状況で待っていても予約は入りません。東京に営業に行こうと計画しています」(宮田会長)。

農泊の老舗である安心院町GT研究会ですら、大きなダメージを受けており、これまで抑制していた展開を模索されています。そこには下記のような3つの狙いがあると思われます。

- ①ターゲットや営業領域を拡張する(子どもから大人へ、宿泊から料理提供へ)
- ②単価・利益率の向上(高額商品の導入)
- ③他業態との提携による営業力・情報発信力・ネットワーク力の強化

9)これから「農泊」を始めようとする皆さんへ

「子どもたちにとっての農泊のニーズは、安心院が農泊を始めた25年前と変わっていない。むしろ高まっているかもしれません。農泊など教育旅行は、農村の大きな役割だと思いますよ」と宮田会長は語ります。

「いろんな地域から視察に来られて、『うちにはなにもない』とおっしゃる。私は『あんたがいるじゃないか。あんたが頑張れよ』と言います。農村には観光地のようなものはないけれど、リーダーが出てきて『やろう!』と地域をまとめたら売れる地域になれると思う」。

行政の役割についても話が及びます。「最初は、地域だけでは難しいかもしれない。安心院では最初は県の方が『勉強会をしよう』と声をかけてくれた。それがなかったら、この活動は生まれてなかったかもしれません。行政と連携できるといいなと思いますね」。

会長自身のことについてもお聞きしました。「私は安心院の人間ではありません。近くの長洲町という港町。熊本にも同じ地名がありますね。安心院の人からすればよそ者。でも、よく言うじゃないですか。『よそ者、若者、馬鹿者』って。だから、皆さん、よそ者を大事にしてください」。

発祥の地
農泊でスッポン料理を堪能しよう
 農泊とスッポンを!!

農泊発祥の地安心院町は水が豊く日本におけるスッポンの三大産地と並び、昔から民家でも養殖に上がっていました。今では日本有数のスッポン料理のお店が軒を並べ、そしてスッポンの養殖場もあります。毎年定例の博多の中学校の体験学習でスッポンの取組も行いました。

農泊も発祥して25年になります。この町の農産品スッポンを農泊でスッポン鍋等で料理体験しながらスッポンの美味しさ、スッポンによる地元の特産の魅力を味わっていただきます。

加賀でしょう。農泊でスッポンを。心よりお待ちしております。(作家 司馬遼太郎氏が絶賛した安心院盆地)



【料金】 観一名額 農泊とフルコーススッポン、朝食1名額 15,000円(2名以上)(全て税込み)
 10,000円(小学生以下)
 スッポン料理体験のみ お一人様 8,000円(3名以上)(スッポン鍋と鍋炊で6,000円)
 ※料理は基本フルコースでスッポン鍋、唐揚げ、肝御はし、お漬物、焼酎、生魚、漬物、漬物等とします。(都合によって、スッポン鍋と鍋炊で12,000円コースも用意できます)
 ※お酒は基本持ち込みになります。
 ※受け入れ人数は原則6名以内とします。(選択できます)
 ※家族は別として当泊は一人様とします。(選択できます)
 ※スッポン料理提供は10月～3月までとします。 ※要予約(7日～10日前出)

【農泊の注意】 ※農泊は安心院方面、宇佐市等全体でお受け致します。 ※近隣の観光地まで送迎致します。
 ※チェックイン午後3:00 チェックアウト 午後9:00 (アノアノ、喫煙等禁止)

【申し込み】 NPO法人安心院町グリーンツーリズム研究会
 〒872-0821 大分県宇佐市安心院町下も 1195-1
 TEL 0978-44-1158
 FAX 0978-44-0353
 Email japan-ajimu-gt@npo.or.jp
 申し込み時間(基本) 午前9:00～午後3:00とします。
 ※コロナ対策 (一人様(名額)、原則4人以内、予約の調整、換気、マスク着用)

スッポン料理の調理実習会チラシ



安心院町GT研究会事務局前の看板



宮田静一会長

(3) 農泊家庭「百年乃家ときえだ」

宮田会長のインタビューを終え、私たちは今日泊めていただく「百年乃家ときえだ」さんへと車を走らせました。ホストの時枝さん夫妻は安心院町GT研究会の活動の初期から農泊の受け入れを行ってこられたベテランで、特に奥さんの時枝仁子(まさこ)さんは農泊メンバーのリーダー的存在でもあります。

この日は、私たち取材班(2名)とは別に、女性グループ5名が宿泊されていました。通常は1日1組なのですが、取材の趣旨をご理解いただき、実際に宿泊者とも交流の機会があった方がいいだろうと、先方のご了解を得た上で受け入れていただきました。女性グループは母屋の古民家に、私たちはご家族用の住居に泊めていただきました。

1)「百年乃家ときえだ」は文化の香りが漂う古民家

百年乃家という屋号だけで期待はしていましたが、お伺いしてみると、やはり期待通りというか期待以上の佇まいでした。母屋の外観はリニューアルされているのでしょう、古い感じはしませんが、中に入ってみると、黒光りする柱や階段など重厚な日本家屋で、さらに家具や調度品もおしゃれで女性の観光客にも喜ばれそうです。なお、洗面、浴室、空調、電源やネット環境など、不便を感じることはまったくありませんでした。

母屋の1階にはリビング、床の間、時枝夫妻の寝所、ダイニングキッチン、浴室などがあり、2階には宿泊用の部屋が4~5室あります。女性グループは2~3室に分かれて宿泊されているようでした。

母屋の脇には小作りな建物が建っています。元は米蔵で、現在は改装されて囲炉裏が作られています。主に食事に使われていますが、必要に応じて1~2名の宿泊スペースとしても利用できるとのことでした。

2) 囲炉裏を囲んで、ジビエとガールズトーク

私たちが到着した時には女性グループは不在でした。近くの農場に農業体験に行っており、一度「ときえだ」に戻ってきた後、やはり近くの温泉施設で入浴してから戻って来て、夕食という流れとのこと。時枝さんご夫妻は夕食の準備と送迎を分担していました。なお、通常でも入浴は近隣の温泉施設を利用してもらうことが多いとのこと。狭い家庭風呂よりもゆったりできるし、受け入れ家庭側の負担も軽くなります。

女性グループが入浴から戻ってきました。このグループは関東在住の30代から40代の女性たちで、JTBの募集で集まったメンバーだとのこと。田舎に滞在する旅行企画には何度か参加した経験があり、今日は農林水産省の移住定住促進事業の一環で、都市の人たちに地方の暮ら

安心院農泊 行程のご提案			
安心院農泊のお申込み誠にありがとうございます。下記詳細につきましてまとめておりますのでご確認ください。また、何かご不明な点等ございましたらご相談ください。よろしくお問い合わせします。			
概要			
お名前	森 真由緒		
日付	2021年12月5日		
宿泊プラン	農泊1泊2食(夕食・朝食)		
その他	12月6日すっぽん料理実習会		
日	時間	内容	備考
12/5 (日)	16:00	「百年の家ときえだ」チェックイン 以下 農泊家前にて	
		温泉ご入浴ご案内 夕食・宿舎・宿泊	夕食
		起床・朝食	朝食
12/6 (月)	8:00	以上 農泊家前にて きえだ」チェックアウト 時枝さんが先導して実習会場へ	「百年の家と
		取材	
農泊詳細			
屋号	百年乃家ときえだ (代表者 時枝仁子)		
住所	大分県平良市安心院町且路 206 (Google map https://goo.gl/maps/cYmTg2p2w22)		
TEL	0976-44-0811		
家が家の特徴	お米と料理を数産しています。明治28年に建てられた自宅を各客様に全量開放しています。ゆっぴりのんびりお過ごしください。お農さんの家庭料理をご堪能ください。		
客室	お部屋(母屋・別荘・別荘)		
設備 等	トイレ、お客専用 / 洗面台、お客専用 / ペット、風呂(湯外)		
駐車場の温泉	免田温泉(約4km)車で約2分 https://www.onna-spring.com/entry/120/ 安心院温泉(約5km)車で約7分 https://www.ajinohot.com/entry/3		
			

安心院町GT研究会から事前に送られてきた行程表



百年乃家ときえだ 入口



百年乃家ときえだ 右が母屋、正面に見えるのが囲炉裏の部屋

しを体験してもらい、移住定住への意識や行動を促す、いわゆる実証実験的な試みのために参加したということです。「ときえだ」には女性たちが宿泊していますが、別の農泊家庭には男性たちも宿泊しているそうです。期間は1週間と長く、地域の人たちとの交流や農業体験などのプログラムが組み込まれているとのこと。

女性たちの旅の目的は単純な観光ではなく、「自分探し」のようなものをかなり含んでおり、経済的にも余裕のある層だと思われます。

米蔵を改装して設えられた囲炉裏での夕食は楽しいものでした。その日の夕食のメインは囲炉裏を使った焼き肉。他には、鰹の南蛮漬け、柿と大根のなます、おにぎりとすまし汁といった素朴なメニューです。

女性たちは食事に舌鼓を打ちながらグループ内で会話をします。ホストである時枝さんたちは自ら会話に入っていくたりはしません。聞かれたら答えるけれども、自分が会話をリードすることはありませんし、女性たちに職業や身の上などを聞くことはまったくありませんでした。宮田会長が語られた「農泊の極意」はきちんと守られているということがわかります。

時枝さんは女性たちから「いつ、なぜ、農泊をやろうとしたんですか？」と質問されて、当時のことを語りました。「私は安心院で生まれ育って、他を知らなかったのよ。この家にお嫁に来て農業をやって、それ以外の仕事も知らなかったの。その頃、宮田会長がGT研究会を立ち上げて、農泊というものをやるので、参加したい人はいないかと。それでね、私はこれに人生を賭けてみようと思ったの」。とつとつとした語りなのですが、年齢を重ねた女性を選んだ人生の話は、女性たちの心にしみただと思えます。

女性たちに安心院の農泊の感想を聞いてみると、「この農泊はレベルが高いですね。組織がしっかりしているので、対応もきちんとされている」とのことでした。

夕食と食後の会話が終わり、女性たちは母屋の2階の部屋に引き上げていきました。それから私たちは時枝のお父さんと家の前で立ち話をしました。見上げると満天の星。



囲炉裏で食事する女性グループ
奥に座っているのがホストの時枝さんご夫婦



女性たちと語り合う時枝仁子さん

「今日はよく見える。お嬢さんたちにも教えてあげよう」とお父さんは知らせに。すぐに女性たちが上着を羽織って、寒い外に出てきました。夜空を見上げて歓声を上げ、母屋の灯りが遮られるあたりまで進み、またしばらく震えながら歓談です。「こんなに星が出ているのは見たことがない」と口々に話していました。

3)「百年乃家ときえだ」のシンプルでおいしい朝

翌朝はいい天気になりました。朝霧が出るかと期待していたのですが、出ませんでした。

ついからですから、朝食についても記しておきます。

海苔と生姜の佃煮がのったおにぎり、オムレツ風の卵焼き、ひじきの煮物などの少量の惣菜が配されたワンプレートに、お味噌汁とヨーグルト。シンプルな朝食でちょうどいい。新米のおにぎりがとても美味しかったです。



百年乃家ときえだの朝

(4) スッポン料理実習会

翌日は、宇佐市院内支所に併設された宇佐市民図書館院内分館で開催される「スッポン料理実習会」取材しました。久しぶりの「グリーンツーリズム実践大学」であり、新たな客層や高額商品帯を開拓するための大切な試みでもあります。

参加者は女性9名と宮田会長を含む男性4名。事前にメディア各社にリリースされており、料理実習が始まると、新聞社や地元ケーブルテレビ局の記者、宇佐市役所の方が次々に参加されます。スッポン料理の勉強会にとどまらず、コース料理の試食会を兼ねて、メディア各社の記者さんに賞味していただいた上で情報発信に手を貸してもらおうということです。長年のメディアとの交流経験を持っている宮田会長、抜かりがありません。

メディアとの付き合い方とともに、興味深かったのはお母さんたちのチームワークの良さです。スッポンの鍋、唐揚げ、肝と玉子の煮物など、多彩な料理を作っていく同時並行の作業が、すごいスピードで進んでいきます。長年連携してきたチームだからできる役割分担のスキルや呼吸があるのだろうと感心した次第です。

言うまでもなく、スッポン料理は絶品の美味しさでした。今後このような商品開発がいかに進展し、効果を上げていくのか、楽しみにしたいと思います。

スッポン料理実習会



(5) 再び、「百年乃家ときえだ」へ

スッポン料理実習会の後、再び「百年乃家ときえだ」に戻り、時枝さんへインタビューを行いました。

「この2年間、ウズウズしていたんだけど、会長のGOサインが出ないと私たちは動けない。料理実習会は待ってました！という感じなんだけど、急な話で月曜の平日だったから、人数はあれくらいしか集まらなかったの。本当はあの2～3倍は集まるんだけどね」。

ー チームワークやスピード感がすごかったですね。

「女性の生活力だと思いますよ。人は何をやっている、じゃあ自分は何をする。指示されなくても動ける。女性が持つ暮らしの中の生活力。で、会長のホイッスルがピーっと。運動会じゃないですけどね、楽しいのよ。みんなで神輿を担いでわっしょいわっしょい。今日はスッポンのお神輿だったけどね」。

ー それが安心院の特徴ですね。

「安心院は、リーダーとともにまとまって、協力し合ってひとつのことをやり遂げようと。何も無いところをなんとか形にして、町に新しい産業、女性たちの新しい産業を興そうとしてね。ブレないリーダーが必要だし、行政の力もお借りしないと前に進まない。自分ひとりではこなせないの、周囲の人と手をつないで、まずは主人と家族とね。そういったところから力を集めていかないとね」。

時枝さんの話は宮田会長が語られた「極意」にシンクロし、より具体的に表現されていきます。

「組織ができて『あの人は好かん』とか悪口は絶対言わない。良いところをほめてあげて、悪いところは見ないで口にもしない。自分のものさしだけで見ない。他人のものさしは自分とは違うことを知って、自分が勉強して、自分を成長させればいいんだから」。

「一流に学ぶ、というのも安心院の合言葉ね。『グリーンツーリズム実践大学』というのをコロナ前までは年に5、6回やって。2日間の日程で、1日目は学識経験者の講義、次の日は調理の講習。受講料は2日間で2,000円～3,000円。自分で受講料を払って、自分の肥やしにするの。農泊に来られるお客さまに提供できる自分のカードを増やしていく。どのカードを引っ張ってもちゃんと対応で



時枝仁子さん

スッポン料理実習会の様子



きるように。講義は自然や生態の話とか難しい経済の話とかもあって、ふつうなら聞く機会がない。耳で学習するのね。それがどこで役立つかはわからないけど、学習意欲は持った方がいいかな。好奇心ね。いろいろな人と接することで刺激になる。好奇心を持って暮らすということは大事かな」。

一 泊まりに来られる関東の女性たちは安心院のどこに惹かれるんでしょうね？

「素になれるというか、自分自身と向き合えるんじゃない？30代くらいの女性たちは迷いもある。私もそう。結婚して子どもを育てながら、自分は何のためにここにいるのだろうと。でもなかなか見つからない。だけど、迷っていることが大事よね。迷わないと何も出てこない。研究会でも『宿泊者の親のことは聞くな』ときちんと指導されていますから、お嬢さんたちにもプライベートなことは聞きません。でも1週間休みを取ってここまで来るのは面白半分じゃない。やはり自分をちょっと探しているんだろうなと思います」。

このようなことは大人も教育旅行で受け入れる子どもたちも同様だと時枝さんは話します。

「ギャルの子たちも来てたけど、かわいいよ。ガングロの子が帰るときには泣いてね、顔をどろどろにして。街に帰ればまた元の鎧を着るんだろうけど、『ああ、良かったね。また元気を充電できて街に帰れるね』と、そう思うんですよ。私みたいなペーペーがそんなこと言っちゃなんですけど、人は厳しく育つのも大切だけど、たまには優しく暮らすのも大事かな」。

時枝さんはゆっくりと言葉を選びながら話しますが、言葉一つ一つに深みがあり、都会の女性たちがお母さんと慕うのもよくわかります。そして、これらの会話の根底に流れる思想が宮田会長と見事につながっており、安心院町GT研究会という組織の強さも感じた次第です。

「私たちは鎧を着るにも着る物がない。これしかない。それ以上の自分にはなれない。旅館の女将にも京都の女将さんにもなれんの。田舎の母ちゃん、ばあちゃんにしかなれんのだから。まあ、しょうがないわ。腹くくらな」。



百年乃家ときえだ